

2023年度FICオープンセミナー：「アンビグラムの世界—文字を見る視点を変える」

深谷，公宣

(出版者 / Publisher)

法政大学国際文化学部

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

異文化 / Bulletin of the Faculty of Intercultural Communication : Ibunka

(巻 / Volume)

25

(開始ページ / Start Page)

133

(終了ページ / End Page)

134

(発行年 / Year)

2024-04-01

2023 年度 FIC オープンセミナー

「アンビグラムの世界——文字を見る視点を変える」

深谷公宣

大学の教育研究活動において文字は必須であるが、もっぱらコミュニケーションや表現手段として認識されており、文字そのものについて考える機会は少ない。本セミナーは、アンビグラムについて知ることで、参加者が文字のもつ社会的・文化的影響力の大きさを学ぶことを目的とした。セミナーでは、2018年に競艇「GI全日本王者決定戦レース」のポスターに使用された「挑戦⇔勝利」、2019年にサッカー日本代表のユニフォームに採用された「日本晴れ⇔侍魂・撫子魂」などの代表作をもつアンビグラム作家、野村一晟氏をお招きし、講演および参加型の制作実習をおこなった。学生のほか、一般市民や学部事務職員の方も参加され、セミナーは盛況となった。

講演では、「どうやってマイナーだったアンビグラムが広がったのか、またアンビグラムのように視点を変えることで人生にどのような影響が生まれるか」について、野村氏の経歴をもとにお話いただいた。高校卒業時の進路として薬学系と芸術系を候補に検討し、芸術系の学部に進んだが、普通科出身の野村氏は芸術を専門に学んできた学生達に技術で追いつけないと気づき、「視点を変える」ことによってシャープペンシルのみによる細密画など独自のスタイルを確立していく。そうした活動のなか、在学中に映画『天使と悪魔』にヒントを得てアンビグラムの制作をはじめた野村氏は、卒業後、高校の美術教師の職に就くも、制作に専念するため非常勤講師になることを選択、赤字とわかっているイベントにもあえて参加するなど地道な活動を続けた結果、SNSで公開した作品が話題を呼び作家活動が軌道にのったという。こうした野村氏の一連の話は、これから社会に出る参加学生にとっても等身大の人生モデルとして参考になるものだった。

実習では、始めに野村氏が普段イベントで実施しているアンビグラムの即興制作が披露された。その後、「さくら」という言葉を例に野村氏からアンビグラム制作のコツを指導された参加者たちが、それぞれにアンビグラムを作成した。野村氏は教室内を移動して参加者が作成したアンビグラムの良いところを褒めてまわり、参加者からも笑いがこぼれるなど、一様に制作を楽しんでいる様子うかがえた。総じて、「視点を変える」ことにより、ひとつの事象が転じる方向性（可能性）が複数あることを野村氏の経歴や制作を通して学ぶことができ、国際文化学部がうたう「複眼的な視点」からも意義深いセミナーとなった。

- ・開催日：2023 年 11 月 20 日（月）18:35 ～ 20:15
- ・場所：大内山校舎 Y702
- ・講師：野村一晟（アンビグラム作家）
- ・司会：深谷公宣（法政大学国際文化学部教授）
- ・参加者数：79 名